

ご近所みんなで助け合えた

柏崎市 40代 女性

電気は翌々日で、ガス、水道は8日後に復旧しました。夏だからやっぱりお風呂とかに入りたいじゃないですか、でも水も何もない。そんな時、近所に引っ越してきた人が、「水が使えるから、お風呂に入りに来なよ」と言ってくれました。

1週間水が出なくて、洗濯が大変だったんですが、近所の人から「私の実家は水が出たよ」と言って、洗濯物を持って行って、全部洗濯機で洗ってくれて、後は干すだけにして戻してくれました。ほんとうに有り難いと思いました。

それから、うちは市内でもすごく復旧が早いほうだったので、子供の部活の友達が、帰りにシャワーを浴びに来たりしたこともよくありました。隣が「カップラーメンはいっぱいあるんだけど、火がないんだよね」と言えば、うちのカセットコンロを貸してあげたりしたこともありました。

何か、地域みんなが、ほんとうに助け合ったなって思います。



危機一髪、家を出た後に土砂くずれ

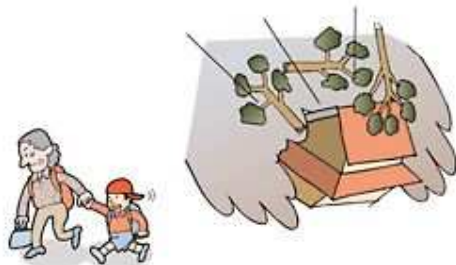
宮津市 30代 女性

その当時、上の子が幼稚園で、下の子が保育所に通っていました。私は工作中だし、家族みんなが川を挟んでばらばらのところにいたわけです。

上の子は幼稚園が終わって実家のほうに預かってもらっていましたが、実家に迎えに行こうにも川を渡らなければならないのです。

で、実家のほうに、「雨がすごいし、川の水があふれてきているみたいだから、私の家のほうに行つといて」とお願いしたんです。それから保育所のほうは主人に引き取りを頼みました。

結局、母が家を出た何分後かに土砂崩れがあって、家は全壊しました。実家は一番山側にあつて、その年は結構雨が多く、何回か近くのがけが崩れていたのので、何となく「怖いな」と思っていました。早く移動してもらつて、ほんとに良かったなと思っています。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう！

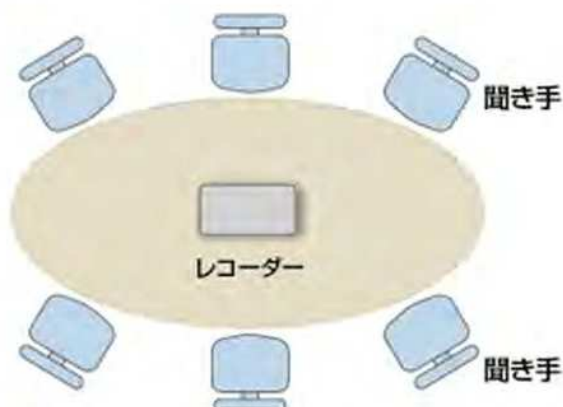
—簡単な手順を紹介します—

まず、過去の自然災害（地震、水害等）の中から対象を選ぶ

その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する ※所用時間は約2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、
体験したり感じたことを話し合ってもらおう ※話し手は、2人～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を「物語」にする
※物語は、300字～500字程度で、できるだけ語り口を残して編集
※物語の情景を表すイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省